



ええJAん! /

おのみち



Check

今月の栽培ポイント

10月

営農情報



詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道営農センター ☎0848-56-1231

世羅営農センター ☎0847-25-5029

尾道北営農センター ☎0848-29-9611

浦崎支店 ☎0848-73-3311

向島営農センター ☎0848-44-2106

御調支店 ☎0848-76-2242

因島営農センター ☎0845-25-6161

世羅西支店 ☎0847-37-7100

水稲

ほとんどの圃場で刈取りが終わり、収量や品質の結果でこの一年の栽培を振り返る時期となりました。

収穫した玄米などを再度見直し、原因と対策の分析を行う事が、次年度の米づくりの第一歩となります。

【圃場の細かな点検・修繕を】

本年度の栽培を振り返り圃場の点検や修繕に取り組めるのもこの農閑期です。

この秋から来年の春までに圃場の欠陥を点検修繕しておきましょう。

圃場の均平化に努めたり、漏水の激しい圃場では畦際に資材を投入するなど、細かな点検や修繕をこの時期に必ずやっておきましょう。漏水を少なくし、水を均一に張ることで、除草剤の効果を十分に発揮させることができます。

また、圃場の均平化は除草剤だけでなく、粒剤や豆つぶなどの本田防除剤を効率的に効かせることが可能になります。

【米づくりはこの秋から】

◆「秋起こし」の推奨

刈取りが終わったなら、できるだけ早いうちに耕運するようにしましょう。地温が高いうちにワラを鋤き込んでしまえば、土の中に残っている肥料の影響等もあつてワラの分解がスムーズに進みます。また、ワラの分解を考えると耕運は最初から深く耕すのではなく、1回目よりは2回目というように徐々に深く耕すようにしましょう。

また、石灰窒素などのワラの分解を促進する資材を積極的に投入することで、分解がよりいっそう促進されます。

◆次のような症状が圃場で発生していませんか？

- ・浮きワラが多い
- ・ジャンボ剤やフロアブル剤などの省力型の除草剤が効きにくい
- ・田んぼに入るとボコボコとガスが発生していた

ワラの分解が進まなければこのような症状が発生し、米づくりに悪影響を及ぼすため、特に「秋起こし」を推奨します。

◆地力の回復

刈取り後の稲わらや稲株には「ケイ酸」や「加里」が多く含まれており、その成分を土中に返してやることで、翌年産の成分として再利用できます。

稲わらに含まれるケイ酸の量は約11%もあり、重量から換算すると、年間必要量の約80%を賄うことが可能です。天然資源を有効に活用しましょう。

秋起こしをして有機物の腐熟を促進しましょう。



【土づくり資材を活用しましょう】

この時期に行う「土づくり」は、来年の米づくりに向けて、とても重要な作業です。土壌診断を行い「ケイ酸」や「加里」が不足していれば「ケイ酸加里」を施用しましょう。

また、マグネシウム、カルシウム、鉄等の微量要素を補給し、地力を向上させることによって

- ・天候不順に影響されにくい生育
 - ・病害虫に対して抵抗性が高い生育
 - ・安定した収量や高い品質
- が期待できます。

土づくり資材を積極的に活用して来年の「米づくり」の基盤作りに取り組みましょう。

資材の選択や投入量は稲作暦を参考にするか、お近くの営農センターまたは支店の担当者にご相談ください。

土づくり資材を活用した土づくりに取組んでみましょう。

柑橘

本年度も気温が高いため、着色遅れや浮皮の発生が心配されます。適期収穫を心掛けましょう。

【中晩柑類・みかんの樹上選果(摘果)】

収益につながる等階級に仕上げるため、樹上選果を徹底しましょう。規格外果実を摘果しておく、収穫・家庭選別が大変楽になります。本年度も日焼け果が多いので徹底排除してください。

【収穫から出荷について】

◆収穫から出荷までの注意事項

収穫前には腐敗防止剤を散布する。

(※レモンは散布しない)

・出荷前に必ず柑橘栽培管理表を提出する。

・味を揃え浮皮などによる商品ロス防止のために分割採取(外生り果と内生り果の収穫時期を変えること)を行う。

・良く切れるハサミを使用し、二度切りを徹底する。(手が痛い人はドクターカットがおすすめです)

・果実は丁寧に扱う。(特にレモンは衝撃によりヤケ果が出やすいので注意する)



▲この手袋で果実をふくとピカピカになります
軍手などと違って、果実に傷がつきにくいのが特徴です

・選別する場所は明るくして行う。

(蛍光灯は太陽光に近い演色AAA昼白色、LEDは商品名テクテラスがおすすめです)

・生傷・日焼け・アザミウマ被害果は家庭選別で排除する。

【品質向上対策】

◆みかんの浮皮防止

雨が多く浮皮の発生が懸念される場合

は蚩尻期にフィガロン乳剤を散布します。(樹勢が弱るので年間2回までの使用にしてください)

◆枝吊り

枝吊りを実施し着色向上を図りましょう。

◆灌水

しらぬひ・はるみは、果皮障害防止のため11月下旬頃まで、降雨の無い場合は灌水を実施しましょう。

【病害虫防除】

◆アザミウマ

着色期のアザミウマ被害は果実の腐敗につながります。発生が見られる場合は、コテツフロアブルで防除してください。



▲アザミウマ被害果



▲アザミウマ

◆ハダニ

着色期のハダニ被害は着色不良に繋がります。著しく正品率が低下します。大発生する前に薬剤



ハダニ被害果

健全果

を散布しましょう。

◆みかんの腐敗防止剤散布

収穫前には必ず腐敗防止剤を散布しましょう。

◆炭そ病(流れヤケ)

秋の気温が高い場合は、10月下旬にも防除が必要です。八朔や安政柑を対象に、防除暦に従い薬剤を散布しましょう。

◆八朔の落果防止

11月上旬に落果防止目的でマデックEWを散布しましょう。紅八朔は着色が遅れるので、ヘタ落ち防止目的で11月下旬から12月頃に散布しましょう。

◆収穫後の尿素散布

樹勢回復を図るため温州みかんは収穫後、尿素を葉面散布しましょう。隔年結果防止効果もあります。

◆しらぬひ・はるみ水腐れ症防止果皮障害防止

夏に干ばつを受け12月に雨が多いため、しらぬひではヘタ周辺が黒くなったり、ひび割れが発生し、はるみも果皮障害が発生します。過去多発した園地では、ジベレリン1PPMを散布すると発生時期を遅らせる事ができます。



▲しらぬひ こはん症



▲はるみ果皮障害



▲しらぬひのヘタ黒果、ワックス層が剥がれ、汚れが付着し黒く変色している。進行すると穴が開いたり、腐敗する。

はるみは6分着色、しらぬひは8分着色頃に葉から滴り落ちない程度に、樹冠外周の果実を中心に散布します。

【夏秋梢の処理】

鉛筆より太い枝は芽つぼの上で処理し、弱い枝は芽つぼの下で処理します。樹勢の強い樹は除葉処理もセットで行いましょう。

直立し樹形を乱す枝は基部から切除します。

しらぬひ・はるみは、夏芽を次年度の結果母枝として利用するので切らないでください。

レモンはいかような病防止のため、夏秋梢は徹底除去しましょう。

徒長枝も簡単に切れる、にしがきロング剪定鋏を使用すると作業効率があがります。

【秋肥の施用】

本年度の樹勢回復と次年度の養分蓄積目的で施用します。時期が遅くなると吸収が悪くなりますので、10月下旬から11月上旬までに施用しましょう。

ただし、みかんで果実が全くなっている

ない樹は10月上中旬に施用しましょう。
果実がなっている樹は10月下旬の気温が
高い場合、施肥時期を一句遅らせましょう。

【鳥獣害対策】

◆ヒヨドリ

「小太郎」を利用し、樹に直接ミシン糸
をかけることにより被害を防止できます。



▲小太郎

◆カラス

釣り糸を1m間隔でカラスが飛んでく
る方向を中心に高さや位置を変え設置し
ます。透明もしくは黒が効果的です。

◆イノシシ

イノシシ対策で重要となるのは餌付け
をしないことです。摘果実や柵の外に
飛び出た果実も餌付けをしていることにな
ります。侵入防止対策の前に園地周辺
の整備を行いましょう。

フェンスや電気柵は樹から1m以上離
して設置し、イノシシの隠れ家になりそ
うな雑草・雑木を伐採しましょう。

フェンスは縦線が外側になるように設
置します。電気柵はイノシシの鼻に電線

が当たらないと効果を発揮しません。電線
が地上から20cmと40cmになるように配置
します。雑草による漏電に注意しましよ
う。電気柵は昼間でも通電し、柵の入口
も閉じておきましょう。
アスファルトの上にイノシシの足があ
ると通電が悪く効果が落ちるので、道路
から少し園地よりに設置しましょう。

落葉果樹

【共通管理】

収穫も終わり一段落したところではあ
りますが、樹は秋根を伸ばし貯蔵養分を
蓄え、来年の生産の準備を始めています。

【早期落葉防止と防除】

収穫後も定期的(10日に1回程度)に灌
水し落葉の軽減をはかりましょう。

また、健全な葉を保ち貯蔵用分を蓄え
て来年の初期生育をよくする為に病害虫
防除を徹底しましょう。特に病気や、害
虫が目立って発生した園では丁寧に防除
を行ってください。

落ち葉や落果は、病害虫の越冬源にな
り、翌年の発生源となります。園外に持
ち出しましょう。

【土づくり】

根が十分に活動できる土壌環境が必要
です。

有機物の施用や深耕を積極的にいい土
壌の透水性や通気性を向上させましょう。
有機物は、必ず完熟した物を施用して
ください。未熟な物は、根腐れやチッ素
飢餓などによる樹勢衰弱を引き起こしや
すいので注意してください。土づくりは
農業の基本中の基本で、絶対に欠かさこ
とのできない重要な作業です。

長期的な計画を立て、確実にしていま
しょう。

ぶどう

【元肥の施用】

施用後は十分に灌水を行なってくださ
い。

【園内環境整備】

落ち葉や落果は、病害虫の越冬源にな
り、翌年の発生源となります。園外に持
ち出しましょう。

【改植】

着色不良樹や高樹齢樹は生産性も悪く
出荷量減に繋がりますので、早期に改植
しましょう。

いちじく

収穫作業も終わり、今月から樹は落葉
を始め休眠期に入ります。

【土づくり】

いちじくは通気性に優れ、水はけの良
い土壌を好みますが、長かった収穫作業

により地面はかなり踏み固められ肥料や
灌水が効きにくい状態になっています。

中耕の実施、客土の実施など、土壌改
良を行ないましょう。

【園内の清掃】

落ち葉や落果は、病害虫の越冬源にな
り、翌年の発生源となります。園外に持
ち出しましょう。

もも

元肥は施肥基準を参考に11月上中旬に
施用しましょう。12月以降にずれ込む
と、肥料養分の分解が遅れ、初期生育に
影響するので遅れないようにしましょう。

施用後は、中耕・灌水を行って肥料の
分解促進、肥効向上を図ります。

落ち葉や落果は、病害虫の越冬源にな
り、翌年の発生源となります。園外に持
ち出しましょう。

なし

【元肥の施用】

10月中には施用し、施用後は十分に灌
水を行なってください。

【園地管理】

晴天が続く土壌が乾燥するようであ
れば、定期的に十分な灌水を行なってくだ
さい。

かき

【収穫】

雨天や朝露などで果実の表面が濡れている時は、果粉が落ちたり、果実の表面が黒くなったりすることがあります。果皮が乾いてから午前中に収穫しましょう。つるし以外のかきは、果梗を短く切り、果実に傷を付けないよう注意して下さい。

【脱渋処理】

脱渋に向く果実は、ヘタが健全で、果実も病虫害や傷などが無いものを使用します。また、小さい果実は、渋が残りますので除きます。過熟な果実も脱渋により軟化しやすいので、果皮色が同じ程度の果実を揃えます。

◆アルコール法

アルコール度数が30〜35度の焼酎をヘタにつけ、ヘタどししを合わせて新聞紙でくるみ、厚手のビニール袋に入れます。袋の中の空気を掃除機などで出来るだけ減らして密封します。

20℃の条件下では5日程度で渋が抜けます。

◆ドライアイス法

かき10kgにドライアイス250〜300gが目安です。厚手のビニール袋の底に四つ折りにした新聞紙1枚を入れ、柿を入れます。かきの上に新聞紙などを置き、ドライ

アイスをのせます。

袋の中の空気を掃除機などで出来るだけ減らして密封します。

20℃の条件下では4日程度で渋が抜けます。

家庭菜園

気温も下がり過ごしやすい季節になってきました。長期予報によると、今後の気温は平年よりやや高く、降水量は平年並みとされています。

好天が続けば害虫の発生にも注意が必要になります。圃場をしつかりと確認し、早めの防除をこころがけましょう。

【ハスモンヨトウ】

防除適期としては、幼虫が圃場全体へ移動する前の若齢幼虫期が防除適期になります。若齢幼虫期の加害は卵塊周辺に集中します。老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるので防除は早め（若齢幼虫期）に行いましょう。



▲幼虫期



▲卵塊



▲老齢幼虫期

【間引き・追肥・中耕・土寄せ】

各家庭の圃場によって透水性・保肥力・栄養量はそれぞれ違います。自分の圃場の特徴をしつかりと把握することが重要です。

また、雨の降り方によっても肥料の溶け具合が変わってきますので注意しましょう。

間引きはこまめに行い、ある程度成長した時には一定の株間になるように心がけましょう。

追肥を行ったら軽く土と馴染ませ中耕と土寄せを行いますしゅうましよう。

◆中耕の目的

- ・土を柔らかくすることによって根の張りを促す。
- ・通気性を確保することで酸素の吸収をしやすいとする。
- ・土の攪拌で雑草を生えにくくする。
- ・水分や肥料を染み込ませやすくする。

野菜の最終株間目安

白菜	キャベツ	大根	人参	ホウレンソウ
45cm	35cm	25cm	12cm	5〜6cm

◆土寄せの目的

- ・根の乾燥を防ぐ。
- ・風で作物が倒れるのを防ぐ。
- ・ジャガイモなどが緑色に着色するのを防ぐ。

◆追肥のタイミング

○根菜類（大根・人参など）

生育前半はまず根が縦に伸びる（根長）時期となります。生育後半は根が太る（根径）時期となります。作物から見た時、その切り替わる時が栄養が必要なタイミングとなり、葉の枚数からみると本葉5、6枚が概ねその時期となります。

○葉菜類（白菜・キャベツなど）

タイミングとしては3回あり、まず1回目は、外葉が大きく育っている時期です。（外葉生育期）外葉が大きければ大きいほど大きな玉になります。2回目は、芯葉の立ち上がる時期です。3回目は、結球がはじまる時期（結球開始時）です。3回ある中でこの時期が一番作物からみて栄養が必要な時期です。

○軟弱野菜類

基本的に元肥重点になりますが、葉の色や生育などを見ながら追肥を行います。どの作物においても、圃場の性質・気象などを見ながらタイミングよく追肥を行いますしゅうましよう。

世羅ぶどう出荷始まる



出荷されたピオーネを検査する検査員

8月23日(日)、世羅営農センター権現選果場で世羅ぶどうの出荷を開始しました。今季は、梅雨時期の降雨が多く日照不足が心配されましたが、7月以降の好天により日照時間が確保できたため、大きさ・甘さともに十分な品質に仕上がりました。

管内の生産者15人が栽培しており、県内市場を中心にピオーネやシャインマスカットなど計29トンの出荷を計画しています。

部会

尾道わけぎ産地新規就農支援協議会 3人が就農へ新たな一歩



参加者全員で記念撮影

尾道わけぎ産地新規就農支援協議会は9月7日(月)、向島支店で第1期研修生の修了式と第2期研修生のオリエンテーションを開催しました。

修了式では、1年間の研修を終えた第1期研修生3人に修了証が手渡されました。続いて、受け入れが決定した第2期研修生3人の研修開始にあたり、オリエンテーションを開催。来年の就農を目標とし、座学では野菜や病害虫の知識、栽培技術を学び、実習では生産者と圃場で作業をしながら実践的な技術を身につけます。



御調高校ソフトボール部 実りを迎えた稲を収穫



ソフトボール部員に飲料を寄贈

9月13日(日)、御調高校ソフトボール部と連携して取り組む「稲作プロジェクト」で、稲刈りを行いました。

部員たちは田植えから稲作に関わり、実りを迎えた稲を収穫しました。収穫したお米は、選手たちの補食として活用します。また、JAは藻塩レモン水とお茶を寄贈しました。

本プロジェクトを通じて、食と農業の大切さを伝えるとともに、地域とのつながりを深めました。



取材日記

地域で開催されたイベントやSDGsを含めたさまざまな話題をご紹介します！



JA

特殊詐欺被害防止へ ATMに「せっと君」設置



ATMコーナーに「せっと君」を設置する真田専務(左)

8月21日(金)、特殊詐欺被害防止のため、尾道警察署協賛のもと尾道市17カ所、世羅町7カ所の合計24カ所のATMコーナーに特殊詐欺について注意喚起を呼びかける音声発生器「せっと君」を設置しました。

「せっと君」はATM利用者の動きを感知すると、利用者に警戒を呼びかける内容を自動で再生します。

音声発生器の設置に加え、ATMコーナーへ詐欺防止チラシの掲示などにも取り組み、利用者への注意喚起を強化してまいります。



営農 ハンドブック

改訂版を 発刊しました

「営農ハンドブック」初版の発刊(平成22年4月)から16年が経過し、この間、農業を取り巻く情勢や生産環境は大きく変化しております。

こうした状況を踏まえ、今回の改定では、家庭菜園向けの栽培方法や品目の集約、品種の見直しを行うとともに、近年頻発する異常気象に対応するため、土づくりや灌水対策などについても内容を見直しました。

当JAホームページ (<https://ja-onomichi.or.jp/einou>)・営農経済部・各営農センター・各支店でご覧いただけますので、皆様の営農や家庭菜園の栽培技術の向上にご活用ください。

* 紙媒体での提供について *

- (1) ネットワーク環境等の理由によりデータでの取得が困難な方につきましては、必要に応じ紙媒体でお渡しします。
- (2) 提供できる事業所
営農経済部・各営農センター・各支店

理事会 だより

開催日
令和8年9月29日(火)

審議事項

- 第1号議案 当組合における取引のリスク評価書(特定事業者作成書面等)の改正について
- 第2号議案 金山集荷場の売却について

※理事会議事録は、各支店に備え置きしております。

健康だより



STOP 慢性肝臓病

**ALTの値が30U/Lを超えた場合
かかりつけ医の受診をお勧めいたします**

一般的な健康診断でも肝機能検査として血液検査で広く測定されているALT値が30を超えていた場合、慢性肝臓病（CLD）が隠れているかもしれません。まずはかかりつけ医等を受診することをお勧めいたします。



ALT
 $\geq 30\text{U/L}$



目的は何ですか？

肝臓は沈黙の臓器と呼ばれ、肝臓病は病状が進行して、肝硬変や肝臓がんに行進して、疲れやすい、顔色が悪い、お腹が張ったなどといった進行した症状で初めて肝臓病が見つかる人も少なくありません。最近、特に生活習慣病を基盤とするいわゆる脂肪肝（代謝機能障害関連脂肪肝炎（MASH）やアルコール性肝疾患）などが進行して肝硬変や肝臓がんに至ることも増えており、注意が必要です。



尾道総合病院
JA ONOMICHI GENERAL HOSPITAL



ええJAさん!

おのち

2026年10月号
Web No.10

編集／総合企画部 企画課
TEL.0848-23-3331 FAX.0848-24-2303
E-mail: ja-kouno@ja-ono.hiroshima-janet.com

発行／尾道市農業協同組合
〒722-0014 尾道市新浜一丁目10-31
TEL.0848-23-3322 FAX.0848-22-9305
URL: <http://www.ja-onomichi.or.jp>



「地産地消」と「環境」に
配慮したベジタリアン
メニューを提供しています。